



加藤さん

ユリ（東京都）

「お母様と連絡が取れないのですが…」加藤さんから私の携帯に電話があったのは、昨年十一月の初めだった。加藤さんは健康食品の訪問販売で三十年以上、母がお世話になっている女性の方で、離れて暮らす私も、実家を出て以来、定期的に来ていただいている。加藤さんは気さくで優しい笑顔のとても肌のきれいな女性で、加藤さんのところで頂く蜂蜜はとても美味しく、そして、私も母も風邪を引かなくなった。何よ、加藤さんのお話がとっても楽しい。昨今のニュースについても、今日の夕食のことでも、なんでも明るく話すので、太陽のような存在だった。





話は戻るが、その電話が私の元にあった日、母の家に加藤さんに来てもらう約束をしていたのにも関わらず、母はブザーを鳴らしても出ず、家の電話や携帯電話にかけても繋がらず、また、昼過ぎなのに郵便受けに朝刊が入っていたのでおかしいなと思って電話をかけてきてくれたのだった。その電話を切った後、私も母と連絡を取ろうとしたが繋がらず、嫌な予感がして、実家に急いで行った。

母は、ドアを開けたところで意識を失って倒れていた。私は急いで救急車を呼び、母は近くの総合病院に搬送された。診断は脳出血で、緊急手術となった。手術は無事成功した。主治医の先生からの話の中で麻痺が残る可能性が高いということ、あと少し遅かったら手遅れだったかもしれない、ということを言われた。実際、左半身に麻痺が出て、杖歩行の生活になった。加藤さんが連絡をくれたおかげで、麻痺は残った





ものの一命を取り留めることができたので、心から感謝している。また、加藤さんは、母が入院中、何度もお見舞いに来てくれて、いつもの楽しいお話で場を明るくしてくれた。

退院後、一人暮らした母と同居することになり、今は私達の家に加藤さんが定期的に来てくれている。「次、加藤さん来てくれるのはいつかしら？」が、加藤さんが帰った日の私達のお決まりの会話だ。そして、明日は加藤さんが来てくれる日。母は「明日は加藤さんの日だわ！」と、楽しそうに着る服を選んでいる。

【令和元年度・佳作】

